

岐阜県大垣市で確認されたカタマメマイマイ

藤浦千歳¹⁾・西 浩孝²⁾

Discovery of *Lepidopisum verrucosum* (Reinhardt, 1877)
from Ogaki City, Gifu Prefecture, central Japan

Chitose Fujiura¹⁾ and Hirotaka Nishi²⁾

はじめに

カタマメマイマイ *Lepidopisum verrucosum* (Reinhardt, 1877) はナンバンマイマイ科 Camaenidae に属する陸産貝類である。中国、韓国から記録されているほか、日本では本州の関東以西、四国、九州北部に点々と記録の報告がある（湊, 2014）。岐阜県からは各務ヶ原市の本曾川左岸の耕作地から報告されているのみである（川瀬ほか, 2014）。本種は、主に河川敷や海岸部などの草地で生息が確認されており、確認後数年のうちにその個体群が消滅してしまうことが多い。そのような草地環境は河川改修や護岸工事などによって脅かされていることから、環境省のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類に選定されている（湊, 2014）。

このたび、岐阜県大垣市から岐阜県において2例目となるカタマメマイマイの生息を確認したので、ここに報告する。

確認状況

著者の一人である藤浦は、2024年3月から7月ごろにかけて、自由研究として岐阜県大垣市赤坂町の陸産貝類相を調査していた。採集した陸産貝類の同定を、著者の一人、西に依頼したところ、その中にカタマメ

マイマイが1個体含まれていることが判明した。カタマメマイマイは岐阜県で1例しか発見例のない希少な貝であることからその後調査を続けたところ、合計6地点で本種が発見され、そのうち4地点では生貝が確認された（第1, 2図）。各確認地点における確認状況については以下の通りである。調査地の町名は全て大垣市赤坂町である。調査者は、記述がない場合は藤浦である。

地点1

調査地の赤坂公園は、1971年に赤坂町役場の跡地に整備された公園で、2005年に改修が行われた。面積は約2,067 m²。水路があり、本稿執筆時点（2024年）の5年以上前には井戸水を水源とする水が流されていたが、現在は水が止められている。

3月から6月ごろの間に、カタマメマイマイの死殻を1個体採集した。8月24日、藤浦と西で調査を行ったところ、水路の水源周辺を中心に多数の死殻を採集したが、生貝は全く確認できなかった。9月27日に調査を行った際に、生貝1個体を確認した。10月26日、多数の生貝がブタクサ、マルバルコウソウやアカメガシワ等の葉や枝の上、枯れ草の上などの高い場所にいるのを確認した（第3図）。11月中旬には、木や草の上に多数の生貝が確認できたが、11月下旬になると

1) 大垣市立赤坂小学校。Ogaki Municipal Akasaka Elementary School, 1-49, Akasakashinmachi, Ogaki, Gifu 503-2206, Japan.

2) 豊橋市自然史博物館。Toyohashi Museum of Natural History, 1-238 Oana, Oiwa-cho, Toyohashi, Aichi 441-3147, Japan.

Corresponding author: Hirotaka Nishi. E-mail: nishi.hirotaka@gmail.com

原稿受付 2024年11月30日。Manuscript received Nov. 30, 2024.

原稿受理 2024年12月10日。Manuscript accepted Dec. 10, 2024.

キーワード：陸産貝類、絶滅危惧種。

Key words：land snail, endangered species.



第1図. 岐阜県大垣市赤坂町における調査地の位置 (●印, 数字は地点の番号を示す).
地理院タイルに記号, 番号を追加.



第2図. カタメマイマイの生息地. 数字は地点の番号を示す.



第3図. 地点1におけるカタマメマイマイの生息状況.



第4図. カタマメマイマイの生貝 (TMNH-MO-40305).

確認できる生貝が少なくなった。

同所的には、オカチョウジ *Allopeas kyotoense* (Pilsbry & Hirase, 1904), ホソオカチョウジ *Allopeas pyrgula* (Schmacker & Boettger, 1891), トクサオカチョウジ *Paropeas achatinaceum* (L. Pfeiffer, 1846), ヒメオカモノアラガイ *Succinea lyrata* Gould, 1859, ミジンマイマイ *Vallonia pulchellula* (Heude, 1882), ナミギセル *Stereophaedusa japonica* (Crosse, 1871), ナミコギセル *Tauphaedusa tau tau* (O. Boettger, 1877), ウラジロベッコウ *Urairochlamys doenitzii* (Reinhardt, 1877), キビガイ *Gastrodontella stenogyra* (A. Adams, 1868), ナミヒメベッコウ *Yamatochlamys vaga* (Pilsbry & Y. Hirase, 1904), オトメマイマイ *Aegista goodwini* (Smith, 1876), ヒルゲンドルフマイマイ *Aegista hilgendorfi* (Kobelt, 1879), イセノナミマイマイ *Euhadra eoa communisiformis* Kanamaru, 1940 が確認された。

地点2

西濃鉄道線路近くの用水路付近の畑で、地点1から約300 m 離れている。9月13日、畑の一番端のごく一部からカタマメマイマイの生貝および死殻が発見された。また、そこから10～20 m 離れた畑から、多数の生貝が発見された。同所的には、ヒメオカモノアラガイ、ミジンマイマイ、ナミコギセル、キセルガイ科 *Clausiliidae* の一種、ウスカワマイマイ *Acusta sieboldiana* (L. Pfeiffer, 1850) が確認された。

地点3

美濃赤坂駅併設の喫茶店の一角および道路沿いの一帯で、地点1から約600 m 離れている。地面は土と石で、枯れた草、雑草に覆われている。9月13日にカタマメマイマイの大量の死殻を確認、11月5日に生貝が確認された。同所的には、オカチョウジ、オクサオカチョウジ、ヒメオカモノアラガイ、ミジンマイマイ、ナミコギセル、ウラジロベッコウ、ウスカワマイマイが確認された。

地点4

美濃赤坂貨物線路脇の、踏切から南へ長さ約230 m の一帯。地面には砂利が敷かれ、樹木は生えておらず、草本が生育している。広範囲にわたってカタマメマイマイの死殻を確認した。

地点5

美濃赤坂駅東側に位置する矢橋大理石工場のコンクリート外壁の下の側溝付近一角で、地点1から約800 m 離れている。地点4の道路を挟んで反対側あた。樹木は生えておらず、枯れた草本が少しある。8月30日、カタマメマイマイの死殻のみ確認された。同所的には、ヒメオカモノアラガイ、ウスカワマイマイが確認された。

地点6

地点4の工場外壁をさらに200 m ほど離れた工場塀の上の部分で、樹木は生えておらず、ハナニラが植栽されている。8月30日、カタマメマイマイの生貝を複数発見し(第4図)、死殻も確認された。8月30日に生貝として採集された1個体は、豊橋市自然史博物館貝類資料 TMNH-MO-40305 として保管される。同所的には、ウスカワマイマイ、オトメマイマイ、イセノナミマイマイ(または近縁種)が確認された。

考 察

大垣市赤坂町の直線距離で約 800 m の範囲の複数地点からカタマメマイマイの生息が確認された。大垣市赤坂町には有名な陸産貝類産地である金生山があり、これまで多くの研究者が調査に訪れているが、カタマメマイマイは見つかっていなかった（例えば矢橋, 1983；天野, 2001 など）。今回確認されたカタマメマイマイの分布が山麓に限られていること、生息環境が開けた環境であるため研究者の興味が向けられてこなかったことが、これまで発見されなかった要因として考えられる。

地点 1 において、8 月 25 日には死殻しか確認できなかったにも関わらず、9 月 27 日から 11 月下旬にかけては生きた成貝が確認されている。本種は、気温の非常に高い真夏には土に潜る等、人目に付かない場所で過ごし、秋になると地表に出てきて活動する生態だと考えられる。

カタマメマイマイは河畔林環境を中心に生息し、洪水などの増水時に流されることによって分布範囲を広げる性質があると考えられている（早瀬, 2020）。今回発見された地点 1～5 は揖斐川の氾濫原の辺縁部に位置し、揖斐川から約 5.5 km、支流の杭瀬川からは約 500 m の距離にあることから、河川の氾濫により分布を広げた可能性がある。

本種は、現時点では岐阜県のレッドリストに掲載されていないが、生息地が局限されること、生息地が公園や道端、畑など不安定な環境であることから、掲載を検討する必要がある。

謝 辞

大垣市役所には、赤坂公園の水路や樹木についてご教示いただいた。第一著者の両親および祖父母には調査に協力していただいた。記して感謝申し上げる。

引用文献

- 天野正晴, 2001. あこがれの『美濃赤坂金生山』採集記. かきつばた, (27) : 22-24.
- 早瀬善正, 2020. カタマメマイマイ. 愛知県環境調査センター (編), 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020—動物編一, 知県環境局環境政策部自然環境課, 名古屋, 45.
- 川瀬基弘・波多野 順・田上正隆, 2014. 岐阜県初記録のカタ

マメマイマイ. かきつばた, (39) : 45.

湊 宏, 2014. カタマメマイマイ. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編), レッドデータブック 2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物—6 貝類, ぎょうせい, 東京, 364.

矢橋 真, 1983. 美濃赤坂金生山の陸貝. かきつばた, (9) : 12-14.